

病防第125号
平成14年7月10日

関係機関長様

病害虫防除所長

水稲カメムシ類の発生情報について

1 早期水稲地域における斑点米カメムシ類の発生状況

6月12日、早期水稲地域の水田近辺のイネ科雑草地10地点ですくい取り調査を行った結果、過去5年間の同時期の調査と比較すると、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメの捕獲数がやや多い傾向にありました（別紙1）。イネ科雑草上での斑点米カメムシ類の発生は、寄主植物となる雑草の種類や生育ステージに強く依存するようです。そのため、餌場や産卵場所として比較的好適な寄主植物（例えば、イヌビエ・エノコログサ等）が水田の近隣に繁茂する場合には、斑点米カメムシ類の発生状況に注意が必要です。

平成11年度以降、県天草農業改良普及センターが中心となって「早期水稲カメムシ発生予察調査及び対策会議」が開催され、関係機関との連携・協力によって斑点米カメムシ類のすくい取り調査が行われています。本年度は、6月下旬から5週間連続で毎週すくい取り調査を行っております（別紙2-1, 2）。

6月27日、7月4日の調査では、水田内のクモヘリカメムシの平均捕獲数・発生地点率は過去3年間の値と比べると若干低く、その他の斑点米カメムシ類についても過去3年の値に比べ同レベルか若干低い傾向でした（別紙2-3）。しかし、出穂期の早いほ場では比較的クモヘリカメムシの飛来が多く、既に幼虫の発生が認められるところもあり、集中的な被害を被る可能性があります。

防除の適期は穂揃期とその7～10日後の2回ですが、少発生の場合は乳熟期から糊熟期にかけて1回防除を行って下さい。しかし、多発生の場合で、前記2回の散布で残存虫が見られるような場合には、さらに1回の防除を行って下さい。

2 早植え水稲地域における斑点米カメムシ類の発生状況

6月17～18日、早植え水稲地域の水田近辺のイネ科雑草地8地点ですくい取り調査を行った結果、過去4年間の同時期の調査と比較すると、ほぼ同レベルの密度であると思われます（別紙3）。しかし、イタリアンライグラスでは、アカスジカスミカメの捕獲数がやや多い傾向にあり、イタリアンライグラスが繁茂する近辺の水田地帯では注意が必要です。

3 普通期稲地域における斑点米カメムシ類の発生状況

6月19～21日、普通期水稻地域の水田近辺のイネ科雑草地20地点ですくい取り調査を行った結果、過去4年間の同時期の調査と比較すると、いずれの斑点米カメムシ類の捕獲数もやや多い傾向にありました（別紙4-1, 2）。特に、クモヘリカメムシとミナミアオカメムシの幼虫が過去4年間の調査に比べやや多い傾向にあるため、今後の発生に注意が必要です。また、作期が混交している地域では集中加害を受けやすいので、出穂期に成虫を見かけたら防除を徹底する必要があります。